

県民生活審議会
第3回 参画・協働推進専門委員会議事要旨

- . 日時 平成17年12月21日(水) 13:30~15:30
- . 場所 兵庫県公館 第2会議室
- . 出席者 委員：小西委員長、山下副委員長、牛建委員、北野委員
小沼委員、立木委員、野崎委員、速水委員、森委員
県：辻井県民政策部長、木村地域協働局長、藤原参画協働課長、
沖本参画協働システム係長
- . 議事
 - ・ 「県民の参画と協働の推進に関する条例」に基づく施策の効果の検証(最終報告案)について
 - ・ 「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」の改定方向について

. 主な内容

1 検証の最終報告案について

県民意識・実態調査

- ・ 「地域に自分の活躍の場がある人の割合」について、神戸・阪神地域が少なく、但馬・丹波・北播磨が多いという結果になっている。「地域づくり活動に取り組んでいる人の割合」についても、神戸と比べて但馬・丹波は10%以上高い。これは大きな特徴である。地域差を敏感に受け止めて、施策に反映させなければならない。
- ・ 確かに但馬・丹波では地域活動は熱心であるが、神戸・阪神の都市部は熱心ではないのかということ、必ずしもそうとは言えない。
- ・ 認証NPO法人の数を見ると、神戸・姫路・阪神間が多いことから、新しい形の地域活動はむしろ都市部で増えているのではないか。NPO法人の認証数を地域別に入れてみてはどうか。
- ・ 法人認定されたNPOの数だけでは判断できない。条例制定時には、郡部ではそんな認定を受けなくてもいいとか、関心がない人も多かったのではないか。
- ・ 現在のNPO法人認証数は約850あり、神戸が350、阪神間を含めると600程度ある。意識調査結果とこれらのデータをどう捉えるか重要である。

県行政への参画・協働

- ・ 附属機関等の委員公募や県民意見提出手続等の既存の仕組みの改善に加えて、さらに新しい取り組みや方向を考えるべきである。例えばパブリックインボルブメントという言い方をして、県民を巻き込んで一緒に取り組みます、というニュアンスがあつてよいのではないか。

記述方法

- ・ 最終報告書の分量が多すぎる。概要と本編と資料編を切り分ける形で整理した方がよい。
- ・ この検証は、誰が実施し、誰に報告するものなのか。「県が」を入れて読める部分と、第三者的に客観的な書き方をしている部分がある。特に、「必要です」という終わり方が多用されているのが気になる。
- ・ 条例の附則にも書いてあるとおり、施策の効果の検証を行うのは県なので、自分たちに対して厳しく検証をし、その結果に基づいて必要な措置を示すつもりである。

2 支援指針・推進計画の改定について ボランティアプラザと社会福祉協議会

(災害時の対応)

- ・ ボランティアプラザが中心になって災害時を想定したネットワークづくりを行うとあるが、プラザがまず先にあることが気になる。実際に活動している災害支援の団体は、そういう機能をプラザに求めているのか。
- ・ 救援するだけでなく、自分の地域が災害に合った場合に援助を受ける「受援」も大事なので、普段からのネットワークには県外とのネットワークづくりも必要である。そういう活動を地道に続けてきたのは県社協のプロパーの職員である。
- ・ 全国的に見ても、ボランティアセンターが中心となり、災害対応のあり方を研究している事例が多くある。災害NPOも多く存在しているので、平常時からそれらをいかに有機的に組み合わせていくかが重要である。
- ・ 災害時には、県社協とボランティアプラザと神戸市社協の職員とが一緒になって現地へ行った。このあたりの表現を注意したい。
- ・ 今年からひょうごボランティアプラザを中心に平常時から災害対応のあり方の研究会を開始した。そこには経営者団体、労働組合、地域の方も参加している。

(ボランティアプラザの運営、支援機関のネットワーク)

- ・ ボランティアプラザにはたくさんの事業が任されているが、個々の事業の評価・検証をしっかりとしないと、次の支援指針・推進計画が非常に出しにくい部分があるのではないかな。
- ・ 協働の担い手としてボランティアプラザは運営されてきたと思うが、社協のよさが無くなっている。社協の顔が見えず、県がやっているように見える。民間のよさを全面に出しながら、民間と県が協働してひょうごボランティアプラザのよさが感じられるものにすればよいと思う。
- ・ 社協は本来民間のはずであるが、まだまだ民間ではないと思う。現状では、市町の職員が出向して福祉行政を担っている。福祉の部分のNPOはまだまだ未開発だと思う。
- ・ 市町のボランティアセンターの職員は、ボランティアプラザにずいぶん距離を感じている。県下全域でどういうつながりを持っているのか。ボランティアプラザがすべての機能を担えるのかを考えていかなければいけない。
- ・ ボランティアプラザ、生活創造センター、まちづくりセンターなどの地域づくり活動を支援する機関の有機的な結合が必要ではないかな。

- ・ 各市町のボランティアセンターの所長の方々と私的な勉強会を行っているが、地域団体、ボランティアグループとボランティアセンターとのつながりを意識していかなければならないと考えている。
- ・ 現状は県の職員が中心になっているが、ボランタリープラザは、社協とNPOをつなぐということをもっと深めてほしい。
- ・ 戦後、確かに社協が果たしてきた役割はそれなりに大きかった。これから参画・協働社会をつくっていかうとしている時に、社協やNPOがどうという話ではなく、社協やNPOはどう協働するのか、そういう中でプラザはどういう役割を果たすのかを考えるべきである。

活動支援のあり方

(情報提供、学習機会の提供等)

- ・ 昨年つくった事例集がどのように活用されているのかを明らかにして、次はハンドブックをつくるということにつなげていかなければならない。
- ・ 今まで地域創生塾や500人委員会など、さまざまな形で地域の指導者を養成してきたが、過去の取り組みをしっかりと検証した上で、新たな取り組みを考える必要がある。
- ・ リーダー養成講座を受講したからといって、すぐに地域で活動することは難しい。2007年問題も念頭に置きながらいろいろな機会を提供する必要がある。
- ・ 各種講座には、時間を持て余している方が参加されていると場合が非常に多い。それでは県費がもったいない。有料化の検討も必要ではないか。
- ・ 地域のリーダーの方とうまくつながりを持っていくようにできればと思う。あるいは、養成講座を習熟度別に考えていくことを担当部局に検討してもらっている。
- ・ 県民の意見を把握するためには、アドバイザーを派遣する、行政の担当者が話を聞きに行く、といった「出て行く」という視点を入れていくことが大事ではないか。
- ・ 県民局単位で地域づくり活動サポーターを配置し、地域へ出て行くようにしている。支援ネットという言い方をしているが、プラザも支援機関の連絡会議を開催している。
- ・ 「県民の活動拠点の充実」について、空いている民家を借りるようにしたが、これに対しての支援制度がないのは疑問に感じる。

(財政的支援)

- ・ いくつか市レベルで取り組みがあるような、税金の1%を納税者が使い道を指定できる仕組み、税金をNPOの活動に使えるような財政支援を考えてはどうか。
- ・ 1%システムは面白い課題と言える。県税で可能な仕組み、寄附金の多様化等を含めて、総合的に考えていきたい。
- ・ メッセで資金を集めて、アワードで資金を提供するといったやり方が具体的かと思う。企業と団体を結びつけることも一つの課題と思っているので、企業に対してボランティア活動の重要性を訴えていくPRを考えている。

(N P O への対応)

- ・ N P O 法人の申請相談に来た時には、厄介なこともいっぱいあるということをきちんと伝え、是非を判断してもらうようにしなければならない。
- ・ N P O 法人が指定管理者制度を活用しやすくする仕組みをどう考えていくのか。実績がないけれどもやってみたい N P O 法人もある。規模が小さい団体へのプレゼンテーションの指導やアドバイスが必要で、うまくカバーして欲しい。

(目に見える展開)

- ・ 震災がボランティアを生んだように、子どもの安全の問題が出て、地域や親、祖父母がなんとかしないといけないと考えるようになった。このように県民の目に見える形で展開するということは、参画・協働の入り口なのでよいと思う。

支援指針・推進計画のまとめ方等

- ・ 支援指針・推進計画には、今後、具体的な施策につなげていくことを、全庁的に働きかける指針という役割もある。
- ・ 支援指針・推進計画の計画期間は 5 年なので、地域展開や活動の継続性、多様性を踏まえて記載していきたい。
- ・ 支援指針・推進計画は、これから何度か意見を聞きながら作業を進めたいと考えている。2 月には県民意見提出手続等も実施し、3 月末を目途にまとめていきたい。

3 今後のフォローアップ

- ・ 今後は、年次報告を従来と違った形にして、もう少し的確に評価ができて対応がとれるように工夫する必要がある。
- ・ 改定した支援指針・推進計画に基づき、5 年間にわたって施策を展開するのであれば、こういうステップでやっていくという工程表を出していく必要があるのではないか。
- ・ 年次報告とは別に、来年度の施策がどういう方向で展開するかを示す展開方針を毎年作成する。状況が変わっていくことが予想されるので、今の時点で 5 年間を年次割にするのは難しい。

・ 閉会